

山麓探偵団通信

6月号

野鳥の聞きなし山中湖版！

この時期の山中湖村は、湖一周の「ロードレース」や一日かけてハイキングをする「ぐるりんウォーク」などのイベントが続きます。

当編集人も、役員ということでも朝の開会式に参加しています。帰ってきてテラスに出るとホトトギスが鳴いています。

これが何故か「ゼツケンつけたか！」「ゼツケンつけたか！」と聞こえて仕方がないのです。まだ無登録ですが、山中湖村だけに通じる「聞きなし」なのでしようか？・・・

「木村修オリジナルデザイン」の 「バードスタンドに挑戦！」

五月の探偵団は「自然観察の目を育てよう」というテーマで、野鳥のバードスタンド（写真）をつくりました。

まず、担当団長の木村修さんから、企業秘密的（？）スケッチブックを見せていただき、野鳥に関する興味ある講義を受けました。

外観から形だけを捉えてしまうのではなく、骨格や構造はスケッチブックを見ると、動物の基本的な骨組みは皆共通

であることが理解できます。そして、鳥類の足はつま先立って歩いている格好で、空を自由に飛ぶことができる羽も、構造は皆同じなのです。

木村団長のアトリエに移動し、木村さんオリジナルデザインの、木質切板板（ほぼ実寸）六種類から選択し、丸みをつけて削りだす作業が始まります。

次の、下絵のラインを写す作業は、ミニレクチャーで聞いた羽根や骨格の構造が頭の中で反復されます。



ルリビタキ・エナガ・シジュウカラ・カワセミ・ヤマガラスの勢ぞい

色付けの段階になると、緊張は一段とましますが、「色つくり表」も用意されており、仕上がりが楽しくなってきました。

息を止めて羽根の線を描き入れて仕上げのニス塗り、最後に目を入れると見事な野鳥ができあがりました。最初どうなるのか心配し、途中あきらめそうになった団員も、仕上がって勢ぞりする」と「満足満足」の一日でした。

拡がる伊藤浩美さんの自然映像

探偵団の担当団長でおなじみの伊藤浩美さんは、富士山麓の自然の音みや動物、暮らしなどをハイビジョンで撮影し、「富士山麓日記」という山梨県内のテレビ放送番組で毎週放送されています。

今年の夏頃からは、静岡県・山梨県のNHKでも富士山麓の自然の姿をハイビジョン放送されるので、今その取材と撮影に大忙しです。

伊藤さんの自然観と感性は、探偵団の根幹をなすものです。伊藤さんの目を通して富士山麓の自然の姿が大勢の視聴者に届けられることは私達にとっても嬉しく、そして誇らしいことです。

六月の探偵団参加者募集

テーマ：自然との対話

▲ 外の自然・内なる自然 ▼

今年も、標高8000mの天と地の接点に単独で立った、アルピニストの戸高

雅史さんの案内で、富士山麓の静かな沢に入り、森の中で夜を過ごします。

沢あいの冷たい水の流れとせせらぎの音、星のまたたきに共振する鹿の声、闇の中に揺れ踊る新の炎、新緑に染まった朝日が寝袋の中まで入ってくる。

野鳥たちも次々に目覚め、朝霧の中に第一声をあげはじめます。

過去の経験でもなく知識でもない心の中は、「今」何色だろうか・・・。

ほぼ一日、豊かな自然に抱かれて、じっくりと自分の内側の感性と対話してみましょ。

予定日：六月十六日(木)、十八日(土)
(午後一時から翌日午前十一時まで)
担当団長：戸高雅史さん・

集合場所：「あみん」に午後一時までに集合してください。

履物：トレッキング・シューズ

持物：雨具、寝袋(多少貸し出し可)、

長靴、お尻の下に敷くシート、

夜用防寒着、ローソク又は懐中

電灯手袋、マイ・カップ、マイ、

お皿&箸、ホカロンなど

参加費：二、八〇〇円(二食中保険金) 申込締切：それぞれ三日前まで

発行：山麓探偵団事務局

電話：〇五五五・六五・七〇三三

編集人：樋口裕峯